





競技場に展開する ART













写真上４点：岡本太郎
下・左上から志水晴児、
水井康雄、M.リプシ
下・右上から篠田桃江、
水井清子、A.カルデナス

Architecture

世界に類を見ない
独創的な吊り屋根構造

建築家・都市計画家の丹下健三氏の設計により、大規模なスポーツ施設に「セミリジッド（半剛性）吊り屋根構造」を取り入れ建てられたのが、代々木競技場です。

大空間を構築する究極の建物で、日本の伝統的感覚の造形を表現した建築として、国内外から高い評価を得ています。

第一体育館は、２本の大きな主柱の間に２本のメインケーブルが渡され、屋根を支えています。さらに両端は地中へと伸び、吊り橋のように屋根を引っ張り上げています。これが「吊り屋根構造」と呼ばれる仕組みです。

第二体育館も同様に「吊り屋根構造」が採用されており、１本の主柱から螺旋形に吊りパイプが架けられ、屋根面が吊り渡されています。



建築中の第一体育館

また、第一体育館のメインケーブルは、いくつものワイヤーロープの集合体で、アンカーブロック（巨大なコンクリートの塊）で支えられており、このケーブルを土とアンカーブロックの重量（およそ1,350t）の力で抑え込んでいます。

吊り材にはあらかじめ成型した鉄骨を使用し、当時の吊り構造の技術では成しえなかったダイナミックな屋根曲線を造り出しました。

このように様々な技術を駆使して、起工から18ヵ月、東京オリンピック開催まで残すところ39日という綱渡り的な工事で完成しました。



建築中の第二体育館

Yoyogi National Stadium

国立代々木競技場





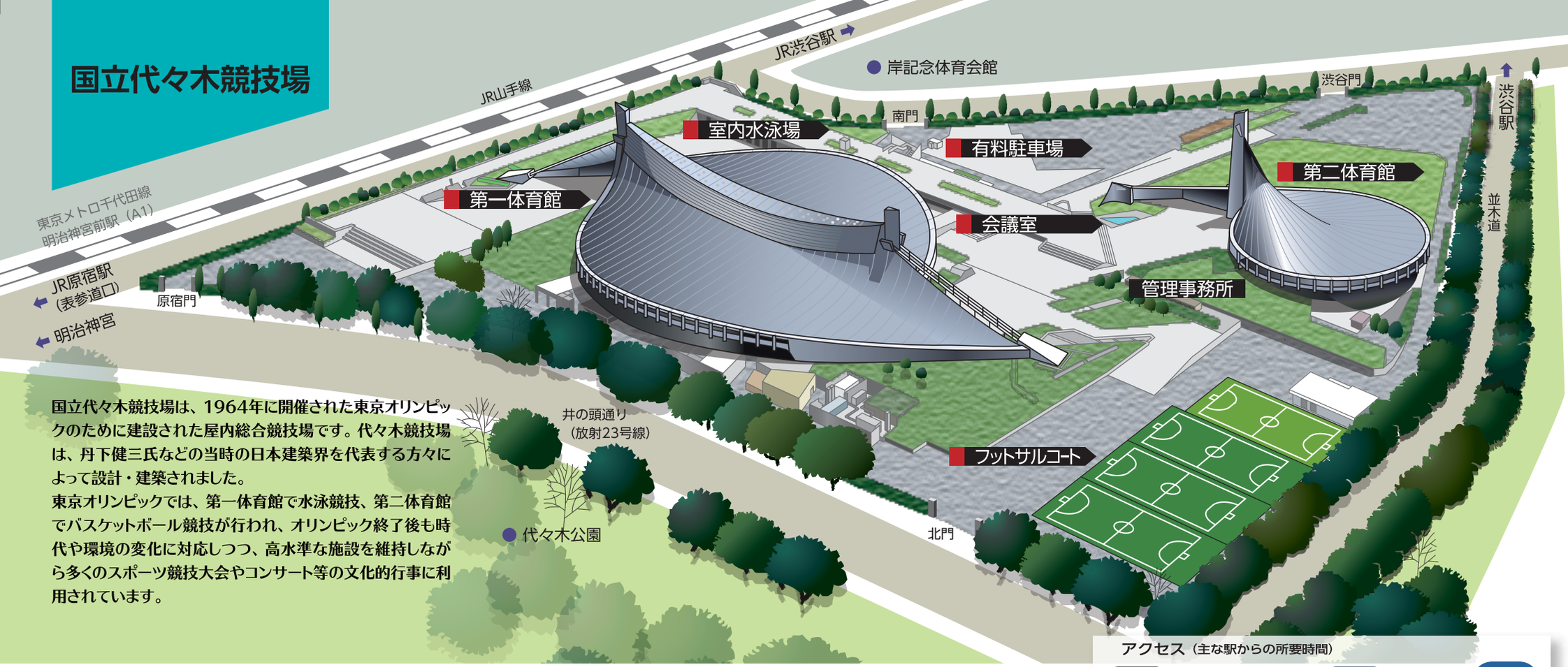
独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立代々木競技場
〒150-0041 東京都渋谷区神南２−１−１
TEL 03-3468-1171

JAPAN SPORT COUNCIL

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

2012.9

国立代々木競技場



国立代々木競技場は、1964年に開催された東京オリンピックのために建設された屋内総合競技場です。代々木競技場は、丹下健三氏などの当時の日本建築界を代表する方々によって設計・建築されました。
東京オリンピックでは、第一体育館で水泳競技、第二体育館でバスケットボール競技が行われ、オリンピック終了後も時代や環境の変化に対応しつつ、高水準な施設を維持しながら多くのスポーツ競技大会やコンサート等の文化的行事に利用されています。

第一体育館

アリーナ面積…　4,000㎡
建　築　面　積…14,426㎡
延　べ　面　積…28,754㎡
最大収容人数…13,245人
　スタンド　9,061席(北１階 2,277　２階 2,338/南1階 2,111　2階 2,335)
　ロイヤルボックス　50席
　アリーナ最大客席　4,124席
　車いす用席　10席
構　造…鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
　地下２階地上２階建



第二体育館

アリーナ面積…1,300㎡
建　築　面　積…3,872㎡
延　べ　面　積…6,947㎡
最大収容人数…3,195人
　スタンド…2,877席
　可　動　席…314席
　車いす用席…４席
構　造…鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地下1階地上1階建



Yoyogi National Stadium

室内水泳場

50m×６コース
１コース幅1.2m
水深1.25m



会議室

会議室１…約　70㎡　約34名
会議室２…約　70㎡　約34名
会議室３…約　55㎡　約24名
会議室４…約　90㎡　約44名
会議室５…約138㎡　約50名
※会議室１～３/約195㎡ 約100名



アクセス（主な駅からの所要時間）

成田空港	90分	JR成田エクスプレス 86分	新宿	JR山手線 4分	JR山手線	原宿駅（徒歩5分）
大宮	50分	JR埼京線 46分				
横浜	42分	東急東横線 39分	渋谷	JR山手線 3分		
羽田空港	30分	京急エアポート 15分	品川	JR山手線 15分		
東京	25分	JR山手線 25分				

フットサルコート

屋外フットサル専用コート
ショートパイル人工芝…１面（38×19m）
ロングパイル人工芝…３面（38×19m）





有料駐車場

収容台数/58台